

第9回 全日本大学サッカー新人戦  
参加レポート

広島県 岡崎啓太郎



■主催

公益財団法人日本サッカー協会、一般財団法人全日本大学サッカー連盟

■日程

2025 年 11 月 25 日（火）～11 月 29 日（土）

■会場

清瀬内山運動公園サッカー場、川越運動公園陸上競技場

■参加審判員

北海道 1 名、東北 1 名、関東 4 名、東海 2 名、関西 4 名、四国 1 名、中国 2 名（岡崎啓太郎、近藤 琢哉）、九州 3 名 計 18 名

■インストラクター

青山 健太氏、柳岡 拓磨氏、辛島 宗烈氏、大柿 拓馬氏、蒲澤 淳一氏、

■審判マネージャー

西村 雄一氏、村上 伸次氏

■担当試合

- ・ 11/25（火）9：30kick off 九州産業大学 vs 東海大学 副審 2 INS:柳岡 拓磨氏
- ・ 11/25（火）12：30kick off 新潟医療福祉大学 vs 札幌大学 4th INS:柳岡 拓磨氏
- ・ 11/26（水）12：30kick off 産業能率大学 vs 福山大学 副審 1 INS: 蒲澤 淳一氏
- ・ 11/27（木）9：30kick off 九州産業大学 vs 新潟医療福祉大学 主審 INS: 辛島 宗烈氏

○11/24 (月)

【研修】

目的：大会の成功

目標（テーマ）：基本のキ（正しい判定）

手段：競技規則の正しい理解&対角線式審判法



正しい判定を行うために

➡判定に繋がる **Piece** を掴みに行く、大きな **Piece** を落とさない

➡そのための対角線式審判法

\* プレーの外側に位置することによって、プレーまたはプレーが向かっている地域内での反則の可能性を容易に視野に入れることができる

○11/25 (火)

【試合の振り返り】

「副審」

・全体的な動きとシグナルを丁寧に行うことができた

・主審とのコミュニケーションをとる際の副審の立ち位置とタイミングを適切にすることが必要だと感じた

・主審が負傷者を復帰させるタイミングを誤った

\* 審判団として気づき、問題を起こさない対応が必要であった

「4th」

・大きな問題はなかった

・交代の手続きをスムーズに行うことができた

\* 審判団として、チームのフォーメーションや戦術、狙いを感じ取りながらレフェリングすることで試合中に起こりそうな事象やアクシデントを予測することもできる



### 【研修】

・浮き球の競り合いの見極めをする際のポイントとは（トリップ or 飛びかかり）

➡ポイントは、優先権+飛び込み方

➡どちらかにフォーカスしすぎる、片方の動きが際立って見える

➡良いポジションで優先権+飛び込み方を考慮して判定することが大切

○11/26（水）

### 【試合の振り返り】

#### 「副審」

・特に大きな問題はなかった

・副審1であったため4thとの情報共有やサポートを行いスムーズに試合を進めることができた

・ファウルサポートをする際にディフェンス側のファウルの場合はアドバンテージの可能性があるのでフラッグアップのタイミングを考える必要があると感じた

### 【研修】

・ほとんどの審判員が、試合中に主審が警告した選手の番号を審判団でその場で共有していないことが話題となった

再開までに30秒かけて審判団の中で警告の番号を共有することで、

➡警告2枚目の選手の退場を見逃すミス無くす確率を上げることができる

試合中に審判団で警告された選手の番号を共有することが大切という新たな気づきを得た

○11/27（木）

### 【試合の振り返り】

#### 「主審」

・終盤の蹴り合いの展開にもスプリントを絶やさなかった

・警告のイエローカードの出す際に、選手を特定できる状況をつくるなど分かりやすさのある出し方を工夫した

・クロスの際の監視に課題があると感じた

➡クロスが上がる際にはすでにPA内でのポジショニング争いは始まっており、そのポジショニング争いの過程で起きるファウルを掴めていなかった。

\*クロスとPA内の両方の争点でのファウルを落とさないポジショニングや視野の確保をするための工夫が必要

・頭部接触が起きた際のドクターを入れる判断が遅かった

➡頭部接触が発生⇒自分自身で選手の状態を確認⇒選手の容態を伺いドクターを入れる

\*このような順序で対応していたが、頭部接触は脳震盪やそれ以上の危険性をはらむもの



であるため直ぐにドクターを入れる判断を行いたい



#### ■最後に

この度は、全日本大学サッカー新人戦に参加させていただきありがとうございました。大会参加にあたり推薦していただいた中国大学サッカー連盟、日頃からご指導していただいております中国サッカー協会、広島県サッカー協会をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。

今大会に参加し、レベルの高い環境で審判を行えたことはとても良い経験となりました。その中で、学連所属の審判員の強みとして日常的にサッカーに関わることから、サッカー観や選手目線を大切にしてほしいという話をされました。これからもサッカーをプレーして選手目線のサッカー観を大切にしながら審判活動を続けていきたいと感じました。

今後も、今大会のテーマである「基本のキ」をフィールド内外で大切にしながら、今大会で得た多くの経験と学びを今後の審判活動に生かして精進してまいります。

